

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		空いている畑を有効活用するには	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	空いている畑を有効活用しよう		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報

下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	いまざとさん		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	ドロップダウン選択一	2. 学生
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	梶原佑友		
メンバー(公開)	木村拓海、勝間田和樹、コルネホリュウジ		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的なチーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 ➡

OK

＜チームメンバー名簿: [メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

畑の有効活用

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

何を裾野市の農業の高齢化を止め若手の農家を増やす事業です。裾野高校の生徒や地域の若い人が主体になって進めていく事業です。裾野市の空いている畑に野菜を植えて地域の方と裾野高校の生徒が協力して育てていき農家の楽しさを伝えたり野菜を販売したり企業と収穫プログラムを行い福利厚生を行う事業です。

誰が誰に対して、裾野高校の生徒と地域の方と主体になって活動します。野菜の育て方と畑の管理は裾野市の農家の人と裾野市役所の協力を得たいと思っている。

活動を通して地域の方に農家の楽しさを知ってもらったり裾野市の農家の人口の現状を知ってもらい少しでも農家になってみたいと思ってもらい裾野市の農家の人口を増やして行きたいです。

どこで、裾野市の空いている畑を使って野菜を育てていきたいと考えている

どのように、畑を裾野高校の生徒や地域の方が管理して野菜を育てていって収穫の時に地域の方を呼んだり企業を呼んで収穫体験プログラムを行ってもらうことを想定しています。

基本的な野菜の育て方は、裾野市の農家の人に教えてもらい活動します。

畑の管理は裾野市役所の方と裾野市の農家の人と協力して管理するつもりです。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

1 つ目の理由は、裾野市の農家に高齢者が多いと知ったからです。

実際に裾野市の野菜直売所の方にインタビューした際に直売所に野菜を届けてくれる方の多くが高齢者で若者に農家の楽しさや裾野市の農家の人数が減少していることを伝えてほしいと言われたからです。

2 つ目の理由は、裾野高校には若い人が多くいて毎年入れ替わるから若い人の人数に困ることが少なく裾野高校の生徒が協力することで地域貢献に繋がります。

実現の意味

現時点では裾野市の農業は続いています但し裾野市の農家の人口が減っていることは変わらないのでこのプロジェクトを通して農家の人口を増やすのは裾野市にとって非常に有効なことになる。

裾野市の野菜直売所の方にインタビューした際にも裾野市は若い人の農家の数はとても少なくこの現状が続いてしまうと野菜の希少価値が高くなり野菜の値段が高くなってしまい野菜が入手困難になってしまい野菜が取れず栄耀が偏ってしまいます。また裾野市は気候や土地に恵まれているため農業をやるのに適した土地とも言われています。このプログラムを通して裾野市に今の農家の人口の現状を知ってもらい少しでも多くの若い農家を作る必要があります。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1 実現する主体

実現する主体は裾野高校の生徒と地域の人と裾野市役所の方
裾野市の農家の方

2 実現に必要な資源

裾野市に空いている畑を借りて野菜を育てていく。
野菜は収穫体験をしたり野菜を販売する予定。

3 実現にいたる時間軸を含むプロセス

5月裾野市の課題の学習

6月課題に対する仮説

7月ヒアリング内容検討

9月裾野市野菜直売所インタビュー

10月裾野市のさつまいも収穫体験

11月まとめ

これからの時間軸

2024年裾野市の農家を増やすための準備

2025年計画完成

2026年裾野市の空いている畑の有効活用実施

2050年裾野市の若い農家の人数が増えている